

イオベンチャーの取り組みと最前線の研究成果、将来展望について紹介します。

#### ATP ポスター ～シーズとニーズのマッチングの場～

企業の研究成果の PR、大学や国研の研究シーズの PR、共同研究や産学連携を目指した研究の PR、等々、様々な講演内容について深く熱く議論できるシーズとニーズのマッチングの場を提供します。講演は3.2. アドバンスド・テクノロジー・プログラム (ATP) に記載した P1～P5 の産業適用分野で募集し、審査申請した講演を企業の審査委員が講演者との質疑応答により審査して、優れた講演には優秀講演賞 (産業) が授与されます。また、審査だけでなく多様な視点のアドバイスや研究のヒントも得られる絶好の機会です。産学官の研究者から学生まで、多くの皆様の講演申込みとご参加をお待ちします (3月16日実施予定)。

#### ATP 交流会～気軽に立ち寄れる出会いと交流の場～

気軽に立ち寄れる出会いと交流の場を、春季年会参加者の皆様に提供します。ATP セッションのオーガナイザーや講師、ATP ポスター講演者も多数参加し、face-to-face で交流できる、願ってもないチャンスです。アルコール、ソフトドリンク、軽食とともに、素敵なプレゼント抽選会などお楽しみも盛り沢山！是非お誘い合わせて ATP 交流

会へお立ち寄り下さい。学生は参加費無料です!! (3月16日実施予定)

#### 9.2 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では、春季年会の活性化を目的として、我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを開催します。開催予定のディビジョンは下記のとおりです。

1. 物理化学/理論化学・情報化学・計算化学/分子科学会共催
2. 光化学
3. 無機化学/資源・エネルギー・地球化学・核化学・放射化学
4. 錯体化学・有機金属化学
5. 有機化学/環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー
6. 天然物化学・生命科学/生体機能関連化学・バイオテクノロジー
7. 触媒化学
8. 高分子
9. コロイド・界面化学
10. 有機結晶

## 第 97 春季年会(2017)「優秀講演賞 (産業)」 “CSJ Presentation Award 2017 for Industries”のご案内

産学交流委員会 委員長 浦田尚男

日本化学会産学交流委員会では、平成 20 年度から「優秀講演賞 (産業)」の表彰を行っています。来る平成 29 年 3 月 16 日(木)～19 日(日)、慶應義塾大学 日吉キャンパスで開催される標記年会においては、下記要領で審査・選考を行い、優れた講演者に対して「優秀講演賞 (産業)」を授与します。

「ATP ポスター ～シーズとニーズのマッチングの場～」で企業の審査委員が講演者との質疑応答を行い産業界の視点で審査するとともに、多様な視点でアドバイスや研究のヒントも得られる絶好の機会です。最新の研究成果の PR は勿論のこと、企業の研究成果の PR、大学や国研の研究シーズの PR、共同研究や産学連携を目指した研究の PR、等々、様々な講演内容で、産学官の研究者から学生まで多くのご応募をお待ちします。

#### 選考対象者：

平成 29 年 4 月 1 日時点で満 40 歳に達していない正会員および学生会員で、講演申込時に審査希望を申請した者。過去の受賞経験者は、研究内容がまったく異なる場合、あるいは研究開発ステージが上がるなど研究の進展が顕著な場合に限り対象とします。

#### 審査対象：

「ATP ポスター ～シーズとニーズのマッチングの場～」

#### 審査分野：

下記 P1～P5 の 5 つの産業適用分野を審査分野とします。アカデミック・プログラム (AP) の口頭 A 講演や口頭 B 講演と同様の内容で、ATP ポスターに申し込むことも可能です。講演申込時に審査分野を明記して、審査希望を申請して下さい。

P1. エネルギー (例；創エネ、蓄エネ、送エネ、節エネ、等々)

P2. 資源・環境・GSC (Green Sustainable Chemistry) (例；炭素資源、レアメタル、化学プロセス、触媒、水処理、等々)

P3. 新素材 (例；自動車素材、航空用素材、建築素材、構造材、包装材、繊維、等々)

P4. 通信・エレクトロニクス (例；プリントエレクトロニクス、有機エレクトロニクス、等々)

P5. 医療・ヘルスケア・バイオテクノロジー (例；創薬、診断薬、人工臓器、再生医療、バイオ品種改良、農薬、肥料、化粧品、等々)

#### 発表言語：

日本語または英語

**選考方法：**

産学交流委員会関連の企業委員、日本化学会フェローなどのほか、委員より推薦され委嘱された企業審査委員が選考基準に基づいて審査し、会期後に ATP 企画小委員会で選考を行い、産学交流委員会で決定します。

**選考基準：**

産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての発表であり、講演者の研究に対する主体性や貢献度が優れ、かつ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの。

**授与件数：**

20 件に 1 件の割合で授与します。

**賞状の授与：**

日本化学会会長名の賞状を授与します。年会終了後、日本化学会から所属長を経由して本人に賞状を送付し、後日、「化学と工業」誌に氏名、所属、演題を掲載します。

## 第 11 回 PCCP Prize 受賞候補者の募集について

日本化学会運営会議

Royal Society of Chemistry (RSC；英国王立化学会) が発行する学術誌 PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) ならびに Faraday Discussion では“PCCP Prize”を設けており、RSC の協力依頼に応じ本会理事会承認のもと、2007 年から毎年、数名の受賞候補者の公募を行っております。受賞者は第 97 春季年会会期中の国際シンポジウムレセプション (International Chemists' Evening) に招待し、賞状授与等を行います。本年度も受賞候補者を募集いたしますので、奮ってご応募、ご推薦願います。なお、本賞の選考対象・応募資格・応募方法などは下記のとおりです。

**■名称：**

PCCP Prize

**■授賞機関：**

Royal Society of Chemistry

PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) and Faraday Discussion

**■選考対象・選考基準：**

本会会員 (ディビジョン登録者) で、物理化学、光化学、理論化学、無機化学、錯体化学・有機金属化学、高分子化学、触媒化学、分析化学、電気化学、コロイド・界面化学、ナノテク・材料、など PCCP がカバーする領域で傑出した研究成果があり、将来の活躍が期待される若手研究者 (受賞年 2017 年 4 月 1 日時点で満 35 歳未満のもの) で、かつその成果の一部を自身が日本化学会第 97 春季年会で発表する者 (口頭 B 講演および各種受賞・招待講演；口頭 A 講演は除外)。なお、日本化学会進歩賞との同時受賞はできません。

**■応募・選考方法：**

※応募 (自薦、他薦)：

本会ホームページから①所定の用紙をダウンロードし、所定事項を記入のうえ、②論文リストおよび③最近 (なるべく過去 3 年以内) 掲載された論文別刷り一報、を添付の上、登録ディビジョン宛てにお申し込み下さい。

※ディビジョン推薦：

ディビジョン主査は、当該ディビジョンに応募のあった候補者の中から受賞候補者として 1~2 名選出し、順位を付け、日本化学会内「PCCP Prize 選考委員会」宛てに推薦する。「PCCP Prize 選考委員会」はディビジョン主査から推薦のあった候補者の業績内容を審議し、3 名以内の受賞者を選定する。受賞候補者は日本化学会理事会に報告し、承認を得る。

**■授賞の内容：**

PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) から賞状 (PCCP Prize Certificate for Outstanding Achievement of Young Scientists in Physical Chemistry and Chemical Physics) を授与。

賞状、賞金 (一人 300 USD 相当) および副賞 (記念誌：100 Year of Physical Chemistry, Royal Society of Chemistry) を第 97 春季年会会期中に本人に授与。後日、会誌「化学と工業」および本会 Web ページならびに RSC サイトにおいて受賞者氏名、所属、受賞題名を公表。

**■授賞件数：**

3 件以内。

**■書類の提出締切りおよび選考日程**

※当該ディビジョン主査宛て応募の締切日：平成 29 年 (2017 年) 1 月 6 日 (金) (必着)

ディビジョン主査/幹事名は本会 Web ページをご覧ください (申込み先ディビジョンの E メールアドレスがおわかりにな